

第 1 1 4 0 回教育委員会会議録

1 日 時 令和 4 年 4 月 2 1 日 (木) 午後 1 時 0 5 分～午後 2 時 4 7 分

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 豊北教育長 南部委員 山本委員 森下委員 横井委員
中森学校教育監 萩原副部長
村崎副部長 (教育政策) 山崎副部長 (高校教育)
竹澤教職員課長 三崎義務教育課長 中村生涯学習・文化財課長
内田保健体育課長 高原課長 (学校体育)

4 議 題

日程第 1 第 1 号議案 福井県奨学育英基金管理規則の一部改正について

日程第 2 第 2 号議案 福井県心身障がい児就学指導委員会委員の委嘱について

日程第 3 第 3 号議案 令和 4 年度福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

日程第 4 第 4 号議案 いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について

日程第 5 第 5 号議案 教職員の懲戒処分について

5 審議事項

(1) 開会宣告 午後 1 時 0 5 分

(2) 会議録署名人の指名 山本委員 森下委員

(3) 議事要録

教育長 本日の日程第 1 第 1 号議案から日程第 5 第 5 号議案、協議報告事項の 4 から 8 については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨発議

—————当該議案を非公開と決する—————

◎協議・報告事項

(1) 令和 4 年度福井県立高等学校入学者選抜について

横井委員 今年度は、特別検査を行うかどうか決めているのか、それとも未定か。

副部長（高校教育） 検討しているところである。今後の教育委員会に諮り、5月中ぐらいをめぐりに決めていきたい。

森下委員 WEB出願を昨年度導入したが、現場の先生や担任の先生から評価する声はあるか。

副部長（高校教育） 中学校長会等を通じ聞き取りの準備をしているところである。今回のWEB出願のシステムは、11月に中学3年生に名前や住所などの個人登録をしてもらい、出願時期になったら志望校を選んで出願してもらった。個人登録をする段階で、若干のトラブルが何件かあり、問い合わせもあった。そこを改善できないか考えているところである。

山本委員 昨年度から、職業系の倍率が1を割っているようであるが、教育委員会として、これについての分析や対策など基本的な考え方はあるのか。

副部長（高校教育） ここ数年来、中学校の先生、保護者、生徒に職業系学科の学びの楽しみなどが、まだ十分伝わり切れていないと考えている。どうしても学校の教員は教育系の大学を出ている人ばかりであり、職業系の学校に通っていた人はいないので、理解がまだ十分ではないことが一番大きな原因と考えている。今後PR活動の中でそのあたりをどうしていくかについて職業系の学校長も含めて検討している段階である。

教育長 大卒を希望する保護者が増えてきており、普通科志向のように感じる。ただし、私立高校は職業系の学科があまりなく、大学に進むような学科しかないので、県立高校は地元産業界の期待に応えるためにも、職業系はある程度残していかなざるを得ない。

横井委員 特別検査を行うのであれば、追検査は一緒にしてもよいと思う。

副部長（高校教育） それらの日程については、中学校や私立高校も含めて調整は必要なので、現在検討しているところである。

横井委員 今回、コロナで追検査を受けた生徒は5人もいたので、特別検査に回っても、それほど大きな問題なかったということではどうか。

副部長（高校教育） そうではないかと思っているが、中学校のいろいろな意見も聞きながら考えていきたい。

森下委員 職業系の学校を卒業して県内企業で活躍されている先輩から、そのよさや役立つところの生の声を拾い上げると、中学校の先生にも説得力があると思うので、それも含めて検討してもらいたい。

（2）令和4年3月県立高等学校卒業者の就職状況について

教育長 昨年度から、「ふくいの産業」というオンライン講座を始めた。年間15講

座であったが、生徒は県内企業のことを知らないので、やはり知った上で就職するようになれば、離職率はあまり高くならず、もっと低くなっていくのではないかと予測している。

森下委員 離職される人の主な原因の統計はとっているのか。

副部長（高校教育） 会社に入った後の、先輩になる社員との人間関係が一番の原因と聞いている。

南部委員 産業人材コーディネーターを配置してマッチングを促進していると思うが、具体的に産業人材コーディネーターとはどのような人でどのようなサポートをしているのか。

副部長（高校教育） 例えば、職業系高校の就職指導を経験してきて定年退職した人、労働局関係のそういった専門の職員、企業の人事関係を経験してきて退職した人という人である。生徒がある企業を希望したときに、その企業に出向いて、その社員と生徒との間をつなぐこと、生徒がある職種を希望したときに、そういった会社が福井県内にあれば開拓してくることなどを主な業務としている。

南部委員 生徒の質問や要望等に対しアドバイスをして活動していると思うが、自分では意欲的に探そうとしない消極的な生徒もいると思う。そういう生徒たちに、受け身だけではなく、もっと突っ込んだ動きをしてもらえると、進路についての意識がより高くなると思うので、それをお願いしたい。

山本委員 普通科系の学校から就職することもあると思うが、就職後に離職をした人について、普通科系、職業系で傾向があるのか。職業系の学校に行けば離職率が下がるわけではないと思うが、どうか。

また、離職したかは何年間ぐらい追跡するのか。

副部長（高校教育） 1点目は、普通科だから離職率が高いなど、そういった傾向は特にはないと思う。

2点目は、国が調査をしているが、統計上は3年間追跡をしている。福井県は、就職したら終わりではなく、その3年間ぐらいは、産業人材コーディネーターや学校現場の教員が会社を訪問しながら就職後の状況の把握も行っているため、そういったところも、もう少し充実していく必要があると感じている。

山本委員 特別支援学校は、これらの就職対策の中で行っているのか。

副部長（高校教育） 特別支援学校の生徒の就労支援に関しては、別の枠組みで行っている。

（3）福井県教育振興基本計画の進捗について

南部委員 教員の魅力を発信する動画については、教育委員もアドバイスをしながら、よい作品に仕上がったと思っている。これを活用して、教員の魅力を伝え、

福井の教員になりたい人を増やして行ってほしい。前回の動画をブラッシュアップし、バリエーションや視点を変えるなどして追加を作り、活用してもらいたい。

昨年度も作成に時間がかかったと思うので、早く着手して期限に追われてこの程度でとまらないようにしてほしい。

教職員課長 昨年度作成した動画は、3月末で4,410回再生されているが、今後も教員志望者WEBセミナー等において活用していく。今年度は、昨年度の3本に続けて、新しく視点を変えたものを考えているので、作る際にはまたアドバイスをお願いしたい。

南部委員 島根県の募集動画はすごく印象的があり、外注でプロが作っているなど感じ、島根県の教育自体もすごいと思わせる内容になっていたのも、参考にするところがあると思う。ぜひ、それらを含めて取り組んでほしい。

森下委員 4ページの方針1の引き出す・楽しむ教育の推進については、小中学校では大事にされている精神だと思う。これから期待したいが、すごく広い範囲の内容だと思うので、具体的にどういうことをしていくのか。

また、6ページの方針6のふるさと福井教育賞について、これも楽しみで期待しているが、今の段階でわかっている範囲で教えてほしい。

義務教育課長 1点目の引き出す・楽しむ教育について、昨年度は、各校から独自の取り組みについて報告してもらい、現在、全校分をホームページに公開している。今年度は、同様に報告してもらおうが、同じような項目に取り組んでいる学校同士をつないで、お互いに情報共有をしながら高めていけるよう発展させていきたい。

2点目のふるさと福井教育賞については、後ほど説明させてもらう。

山本委員 6ページの方針6、文化財調査員や学芸員となる人材の育成と確保について、福井県内の大学で学芸員の資格を取れる学科はあるのか。

生涯学習・文化財課長 基本的に文学部などで学芸員の資格をとるようになっているので、県内では限られると思う。実際、県外出身が結構多く、福井に居ついてくれずに出ていってしまうところもあるので、県内出身の学芸員や文化財調査員を育てていきたい。今、大学や高校に、こういう仕事があることを知らせており、ぜひ仕事に就いてもらえるよう進めていきたい。

教育長 県内の高校生などは、こういう仕事があることを知らない。こういう仕事であれば、福井に帰ってきてても就職先があるけれども、県外大学を出た人ばかりが福井に来るので、何とか地元の人も開拓したい。

山本委員 県内大学に学芸員の単位がとれる学科もあれば、よいのではないかと。私は大学のときに学芸員資格をとったのであるが、県外の大学であった。学芸員をとりたい思いがあったが、学科等の条件として最初から県内大学は選択肢から外れたので、学芸員を育てたいと思うのであれば、学芸員が養成できる学科があることがポイントだと思う。

- 南部委員 方針5の外国人児童生徒に対する日本語指導アドバイザーによる支援について、福井県では今回のウクライナからの児童生徒の状況はどうなっているか。
- 義務教育課長 明日、住民登録がされ、その後は就学手続きに入ると聞いている。手続きとは別に学校に体験に行っており、就学準備を進めている。
- 南部委員 何名いるのか。
- 義務教育課長 1名である。家族で身寄りのある人が福井で結婚して子どももいるところへ、その人の母と妹と妹の子どもの3人で避難してきて住んでいる。
- 南部委員 いろいろなケースがあり、生徒児童の年齢、ロシア語や英語もできるかできないかで千差万別だと思うので、その辺は臨機応変に対応してほしい。
- 教育長 国に対し、ウクライナ関係で要望したいと思っている。子どもへの日本語教育も含め、通訳なども地元市町に結構負担になると思うし、いろいろと要望することがある。
- 森下委員 5ページの方針3の推奨図書の提供について、以前、県で作った幼児からの冊子に対し、保護者から大変ありがたいという声や載っている本は子どもに率先して読ませているという声もよく聞く。今度は冊子ではなく図書自体であるので、具体的にどのように推進するのか。
- 生涯学習・文化財課長 その冊子について、幼児編と小学生編と中学校、高校編の3つを令和2年に作り配布させてもらった。幼児は6カ月健診のとき、小学生は1年、中学校も1年のときなどに配り、こんなによい本があると示している。図書館や本屋にも置いて、これを参考に買ってもらうことを進めている。
今回は、小学生編に載っている72冊の本を購入して、ビブリオバトルや本の帯コンクールを企画してくれる小学校に提供する形でインセンティブをもたせたい。これらの本をもっと購入してもらう目的で行うものである。
- 森下委員 具体的な取り組みであり、子どもたちの本を読む機会が増えると思う。
- 横井委員 令和3年度の取り組みで、タブレット端末の効果的な活用としてロイロノートの導入等があるが、今年の方針には触れられてない。この辺はもう十分なのか。私は全然足りないと、もっと深掘りしていかないといけないと思うが、実際はどうか。
- 副部長(高校教育) 高校の状況については、ロイロノートを全学校に導入してもらい、各学校で活用を進めているところである。教員全員が使いこなすまでにはいかないが、先進的に取り組んでいる教員はいるので、その教員を把握しながら、学校で研修会をしたり、教育総合研究所に来てもらったりと、いろいろな形で広めており、今はタブレット活用への移行段階だと思っている。コロナもあるので、新年度も継続し、ステップアップした研修等を各学校と研究所が連携しながら進めて、使うことを目的とするのではなく、使いこなしながら今

求められる主体的な学びを実現していきたい。

横井委員 今年度の方針にないのは、そこまで重要ではないと思ってしまう。

副部長(教育政策) 今年度、福井県学校教育D X推進計画を策定していく中で盛り込んでいきたい。デジタル教科書、採点アプリと、いろいろある中で一つ一つまでを書いているではないが、また説明し、相談もしていきたい。

横井委員 昨年度は、方針8にあるようにD X推進会議をWEB会議で4回開催したとのことであり、これを踏まえて、今年度はD X推進で何をするのかといえば、デジタルドリルやデジタル採点以外は具体的にはなくて、推進計画を作っていくとしか書いていない。計画ばかりを立て、会議ばかりを行うだけでは何年かけても進まないで、今年より具体的に書いたほうがよいし、書かないと検証ができないと思う。

今の時代、タブレットにすごく投資して、全生徒に渡して、D Xは必須になっている中で、より重点的に職員のリソースを集めなければならないし、8つの方針があるが、その中でどれが今年度一番進めないといけないのか、本当は並列ではなくて優先度があるので、その辺について皆の認識が統一できるようにしたほうがよいと思う。

教育長 D X推進計画を今年度作るのは、結局、進めるのにどうしていけばよいか、まだわかっていないからである。今年度いっぱいかけて、先進地の状況も見つつ何が効果的かを検討しながら、今後の四、五年のD Xとしてすべきことは、この計画にすべて盛り込むことを考えている。

横井委員 うまくいっている事例ばかりでないし、ほかの県でうまくいっても、うちの県に持ってきたらうまくいくのかはわからない。よい事例だといって一斉に導入しても、うまくいかないとそこでとまったりもする。失敗を前提に、生徒にも懸念は伝えた上で、今年度は、一つの学校、一つのクラスだけでもよいので、もっと集中して実験的に行っていったほうがよい。会議をしているだけではなく、そうしないと進まないと思う。

副部長(教育政策) 委員の言うとおりに、すべての小中校、県立高校に一斉に入れようとするれば多額の費用もかかるのでモデルを進めていくのも一つであり、また、先進事例であっても福井県の場合はどうなるかはわからない。会議でいろんなことを議論し、事例を見ながら、5年でやるべきことを、いろいろ盛り込んでいきたい。今スタートしたばかりであるので、教育委員会にも説明や相談をしながら進めていく考えである。

森下委員 横井委員の意見には賛成である。推進しようするのであれば、得意な先生もいるけれども、モデルとなるクラスや学校なりに支援員を配置して一気に進めることが必要であり、その成果がほかの学校のモデルになってまた研修する段階になってくると、さらに支援員は必要である。

教育長 学校に、1人か2人はICTが使えるリーダーになるような人がいる。そういった人たちを集めて今後やるべきことを伝えてどんどんレベルを上げるこ

とも面白いと思う。各学校のレベルをその人たちを中心に上げていきたい。

森下委員 支援員を予算で確保する必要性も感じたが、既にいるのであれば、そういう人たちを中心にやっていくこともよいと思う。

(4) 令和5年度福井県公立学校教員採用選考試験について

(5) 令和4年度大学入試の結果について

(6) 令和4年度教育委員会関係表彰について

(7) 令和4年度スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、24時間電話相談員感謝状贈呈該当者について

(8) ふるさと福井教育賞（仮称）について

教育長 日程第1、第1号議案を議題

副部長（高校教育） 資料に基づき説明

教育長 第1号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第2、第2号議案を議題

副部長（高校教育） 資料に基づき説明

教育長 第2号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第3、第3号議案を議題

副部長（高校教育） 資料に基づき説明

教育長 第3号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第4、第4号議案を議題とする。

義務教育課長 資料に基づき説明

教育長 第4号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 日程第5、第5号議案を議題とする。

副部長（教育政策） 資料に基づき説明

教育長 第5号議案について、原案に対する異議の有無を確認

—————原案どおり可決—————

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後2時47分